

「複式学級」の特性

参照：「複式学級指導の手引き」H28島根県教育委員会

○複式学級のよさ

- ・異年齢同士の協力的な態度を養いやすい。
- ・一人一人の存在感や役割をもたせやすく、リーダー性を育てやすい。
- ・自分たちで学習を進めていく場面が多く、自主的、協力的な学習態度を育てやすい。
- ・児童同士や、児童と教師の関わりが濃く、温かい雰囲気醸成されやすい。
- ・一人一人の児童によく目が行き届き、丁寧に指導することができる。指導の記録も丁寧に取りやすい。
- ・教員が個性を発揮しやすい、共通理解が図りやすい。

「複式学級」の特性

参照：「複式学級指導の手引き」H28島根県教育委員会

◇複式学級指導の課題

- ・ 直接指導を行う時間が短い。
- ・ 下学年児童の依頼心が強くなりやすく，学級になじむまで配慮を必要とする。
- ・ 等質的な行動や同調的な発言が多くなりがちで，多面的，発展的な考え方を育てにくい。
- ・ 実験や作業など，一人あたりの負担が大きくなりやすい。
- ・ 当該学年の発達段階にあわない内容（一斉体育での球技，講師を招く一斉指導など）を学習する場合がある。
- ・ A年度とB年度による教育課程の違いによって，転入生や転出生には未履修の学習内容が発生する場合がある。
- ・ 教員は，会議や研修等の出張に出かけにくい。一人で多くの校務分掌を担当するため，多忙になる。